

各位

2002年8月15日

会社名 株式会社 高島屋
 代表者名 取締役社長 増倉一郎
 コード番号 8233

2002年7月度 高島屋営業報告

主要店舗および広域事業売上高前年増減率

	売上高増減率(%)	入店客数増減率(%)	営業日数増減数
東京店	10.0	7.2	±0日
横浜店	4.9	2.9	±0日
新宿店	0.5	0.5	±0日
関東9店計	5.4	4.1	
大阪店	6.3	5.8	±0日
京都店	6.4	3.9	±0日
関西9店計	5.5	4.0	
全店計	5.4	4.0	
法人事業	12.1		
通信販売事業	8.9		
広域事業(店外)計	32.6 (10.8)		
合計	7.5 (5.8)		

各店の売上高増減率は、店頭ベース。
 関東9店=東京、横浜、新宿、玉川、立川、大宮、柏、高崎、港南台
 関西9店=大阪、和歌山、京都、洛西、堺、泉北、岡山、岐阜、米子
 建装事業は、別会社化にともない2001年9月より広域事業から除く。
 ()内は前年数字より建装事業を除いた実質増減率。

商品別売上高前年増減率(百貨店協会商品区分)

紳士服・洋品	6.1
婦人服・洋品	2.7
子供服・洋品	3.3
その他の衣料品	5.3
衣料品計	4.6
身の回り品	3.7
家具	49.5
家電	17.9
その他の家庭用品	8.8
家庭用品計	26.9
食料品	6.4
食堂・喫茶	4.5
雑貨	8.1
サービス	8.0
その他	9.2
合計	7.5

概況

百貨店事業	<p>売上高は土・日曜日の各1日減に加え、台風接近等の影響もあり、前半からクリアランスセールや季節商材の動きが鈍く、梅雨明けの下旬以降やや挽回したものの、全店計では5.4%と2ヵ月ぶりに前年実績を下回った。店舗別では堺店(+5.1%)が前年実績を上回ったものの、その他の店舗は軒並み低調な結果に終わった。また、商品別でも婦人服(4.3%)、婦人雑貨(3.7%)、紳士服(11.4%)、子供服・ベビー用品(3.5%)、食料品(5.5%)等全般的に低調であった。</p> <p>開催期間を通じての中元ギフトセンター売上は前年実績を下回る推移となったが、早期展開・送料無料を実施したインターネット受注(+165%)は高伸張した。</p>
広域事業	<p>法人事業は大口受注の不調で、また、通信販売事業も盛夏号カタログの不振により、ともに前年実績を下回った。</p> <p>前年の建装事業売上分を除く実質ベースでは10.8%。</p>